

2021 年度東北学生柔道体重別優勝大会にて 採用された新ルールについて

白川 虎太 (弘前大学)

1. 目的

本研究では、2021 年度東北学生柔道体重別優勝大会にて初めて採用された、トーナメントと出場選手を事前に決定し個人戦の成績を元に 1 試合ずつ計算上で対戦を行い代表を選定する方式（東北方式）と、個人戦の各階級 1 名（計 7 名）の総得点で代表を選定する方式（関東方式）を、実際に個人戦・団体戦ともに試合が開催された 2015～2019 年度の同大会を元に比較を行い、東北方式の有効性について検討を行うものとする。

2. 研究方法

- 1) 研究対象：2015～2019 年度東北学生柔道体重別優勝大会
- 2) 調査内容：(1) 関東方式と実際の結果の比較
(2) 東北方式と実際の結果の比較
(3) 関東方式と東北方式の比較
(4) これからの改善案
- 3) 分析方法：各年度の関東方式・東北方式でのポイントを出し、順位再現率・勝敗決定率を元に比較を行った。

3. 結果と考察

(1) 関東方式と実際の結果の比較

順位再現率は全体で 30%、代表落ちとなった大学は 4 校あった。東北大会においては各大学からの出場者数に差があることによりポイント付与機会が均等ではないため、再現率が低くなったと考える。

(2) 東北方式と実際の結果の比較

順位再現率は全体で 45%、代表落ちとなった大学は 4 校、勝敗決定率は全体で 15%高い結果となった。個人戦と団体戦のルールの違い・階級を上げての出場のリスク、ポイント付与タイミングがベスト 8 であることが再現率に影響していると考ええる。

(3) 関東方式と東北方式の比較

再現率は東北方式が 15%高い結果となった。東北方式は階級を上げて出場できるルールがあり、その際、減点されるルールがある。このルールにより

階級差を再現することができ、再現率が高くなったと考える。次に両方式ではポイント付与タイミングが異なる。関東方式では出場選手が多い階級でポイントが多くなるが、東北方式では階級ごとにポイントは変化しない。東北大会に出場している大学は各階級の在籍選手数が均等ではない。こういった点から、東北方式の方が階級による差が無くなり再現率が高くなったと考える。これより東北方式の方が好ましいと考える。

(4) これからの改善案

①勝利点をベスト 8 からベスト 4 にする

順位再現率に変化はなく、勝敗決定率は少し縮めることが出来た。これより、ポイント付与タイミングを遅くすることにより引き分けとなる対戦がふえ、団体戦に近づけることが出来たと考える。

②1 階級上からの出場による減点を 1 点にする

再現率は 5%上昇、勝敗決定率はほぼ変化がなかった。これより、1 階級上からのリスクを軽減することが再現率を高めることにつながると考える。

③ボーナス点を廃止+②

順位再現率は低下、勝敗決定率はほぼ変化がない。このことより、ボーナス点があることにより上位 4 人に差をつけることができ、再現率を高めることにつながると考える。

4. 結論

関東方式と東北方式では東北方式において再現率が高く、東北方式を採用することが好ましいと考える。その後、3 つのルール変更を行った結果、再現率を高めるためには 1 階級上からの出場のリスクを軽減すること・上位 4 人の差を明確にすることが効果的であると考ええる。

しかし、再現率はまだまだ低く、全国出場を逃してしまう大学もいくつか見られた。そのため個人戦の試合内容(1 本勝ち・優勢勝ち・反則勝ち等のきまり技、正味時間内で決着・GS での決着)等の情報をどのようにルールに組み込んでいくかが今後の課題であると考ええる。